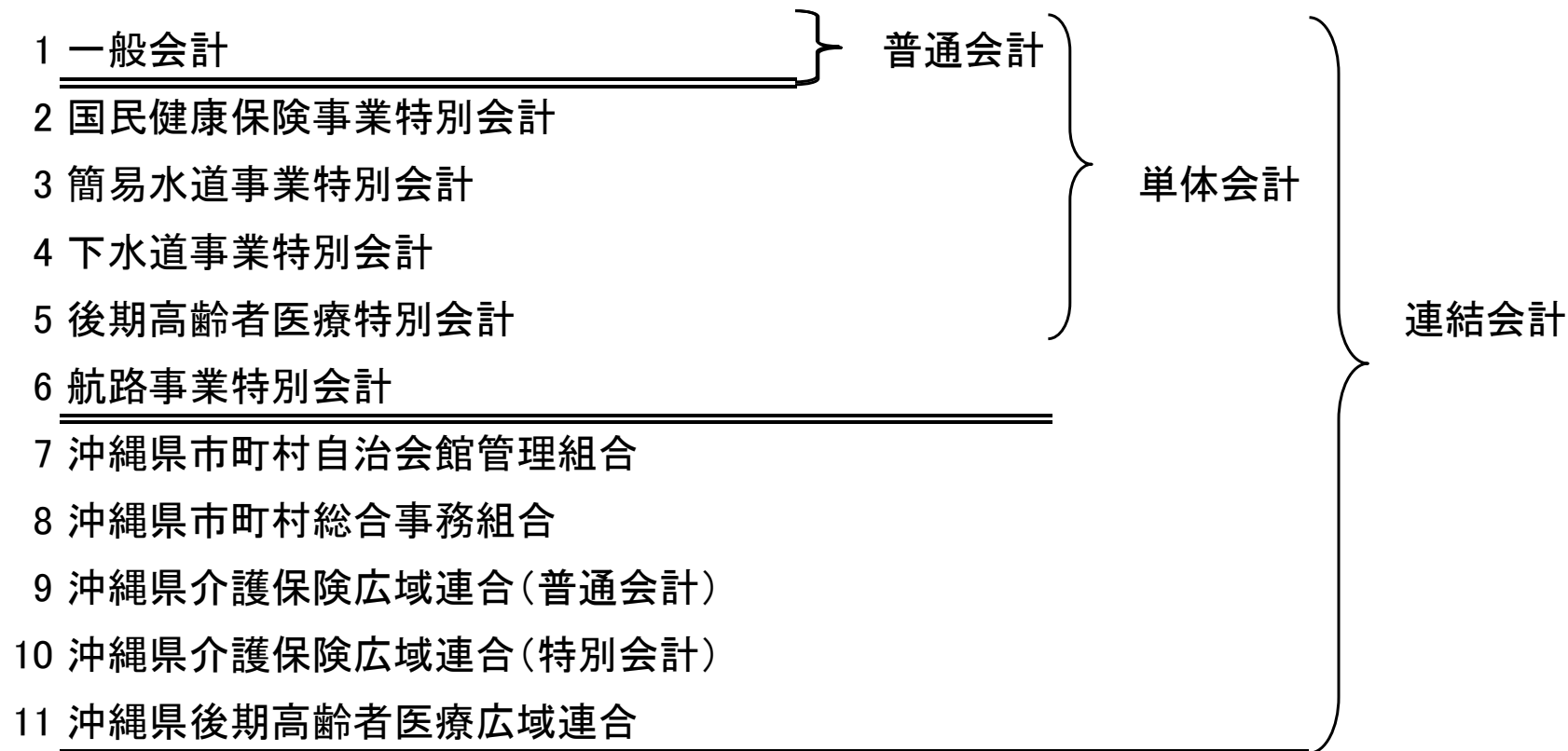


渡嘉敷村 様 財政分析レポート

平成25年3月13日

九州コミュニケーションサービス 株式会社

会計区分



新公会計財務諸表のご説明

普通会計 平成23年度

単位(千円)

貸借対照表			
資産の部	金額	負債の部	金額
1.金融資産 9.8%	986,628	1.流動負債 13.6%	208,954
(1)資金	111,822	(1)地方債(短期)	189,837
(2)未収金	75,887	(2)賞与引当金	14,306
(3)貸付金	0	(3)その他	4,811
(4)その他債権	0	2.非流動負債 86.4%	1,331,226
(5)貸倒引当金	-145	(1)地方債	1,106,934
(6)有価証券	7,668	(2)退職給付引当金	224,292
(7)出資金	22,698	(3)その他	0
(8)基金・積立金	761,309		
(9)その他の投資	7,389		
2.非金融資産 90.2%	9,036,498	負債合計 15.4%	1,540,181
(1)事業用資産	2,797,050	純資産の部	
(2)インフラ資産	6,239,448	純資産合計 84.6%	8,482,945
資産合計 100.0%	10,023,125	負債及び純資産合計 100.0%	10,023,125

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		8,445,652
純経常行政費用		-973,173
直接資本減耗(インフラ資産)		-194,875
財源調達		1,222,572
税金		81,295
社会保険料		0
移転収入(他会計移転収入)		43
移転収入(補助金等)		1,134,669
移転収入(その他移転収入)		6,565
その他純資産の増減		-17,231
期末純資産残高		8,482,945
		37,293

行政コスト計算書		金額
経常費用		1,054,243
1.人にかかるコスト 36.7%	386,392	
(1)議員歳費・職員給与	219,104	
(2)その他	167,288	
2.物件費・経費 41.6%	438,795	
(1)消耗品費	64,184	
(2)減価償却費(事業用資産)	100,291	
(3)維持補修費	90,402	
(4)その他物件費	30,048	
(5)委託費	116,761	
(6)その他経費	37,109	
3.業務関連費用 2.3%	24,623	
(1)公債費(利払分)	23,325	
(2)その他の業務関連費用等	1,298	
4.移転支出 19.4%	204,431	
(1)他会計への移転支出	83,174	
(2)補助金等移転支出	79,721	
(3)社会保障関連費等移転支出	41,280	
(4)その他の移転支出	256	
経常収益		81,070
1.業務収益		65,850
2.業務関連収益		15,220
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		973,173

(1)赤線
純資産の増減を表します。
・緑線は減った純資産
・財源調達は入った純資産
・その他は資産の目減り分

(2)青線
資金の増減を表します。
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		315,566
経常的支出		914,255
経常的収入		1,229,821
2.資本的収支		-84,499
資本的支出		357,288
資本的収入		272,789
基礎的財政収支		231,067
3.財務的収支		-134,335
財務的支出		210,109
財務的収入		75,774
当期収支		96,732
期首資金残高		15,090
期末資金残高		111,822

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

貸借対照表

◆ 貸借対照表、村の財政状況を一目でわかるようにしたものです。

◆ 左側は、村の持つ資産で全体で 100 億円余り(住民1人当たり約 1,440 万円)
右側はそれがどうしてできたのかを表しています。
100億円のうち、約 85 億円は明治時代以来、住民が営々とつくりあげてきた
ものであり、残りの約 15 億円は地方債やその他の資金でできています。
純資産比率(純資産/総資産)は、 84.6% で全国水準(70%) を上回っています。

◆ その資産の中身を見ると、資産のうちインフラ資産は、道路など、経済的取引には
馴染まない資産なので、財政上の判断をするときは、無価値として考えるべき
かもしれません。仮に無価値と考えて実質純資産比率を計算すると 59.3% と
なります。

◆ 公債については 13.0 億円、住民一人当たり約 1,863 千円の借金を持っている
ことになります。

貸借対照表			
資産の部	金額(千円)	負債の部	金額(千円)
1.金融資産 9.8%	986,628	1.流動負債 13.6%	208,954
(1)資金	111,822	(1)地方債(短期)	189,837
(2)未収金	75,887	(2)賞与引当金	14,306
(3)貸付金	0	(3)その他	4,811
(4)その他債権	0		
(5)貸倒引当金	-145	2.非流動負債 86.4%	1,331,226
(6)有価証券	7,668	(1)地方債	1,106,934
(7)出資金	22,698	(2)退職給付引当金	224,292
(8)基金・積立金	761,309	(3)その他	0
(9)その他の投資	7,389		
		負債合計 15.4%	1,540,180
2.非金融資産 90.2%	9,036,498	純資産の部	
(1)事業用資産	2,797,050		
(2)インフラ資産	6,239,448	純資産合計 84.6%	8,482,945
資産合計 100.0%	10,023,125	負債及び純資産合計 100.0%	10,023,125

庁舎、学校、会館など

道路、漁港など売却不能の資産

84.6%は正味資産

行政コスト計算書

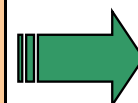
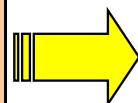
- ◆ 行政コスト計算書は、企業の損益計算書にあたるもので、貸借対照表はストックの財政状態を表すものとすれば、これからの3つの財務諸表はフローの財政状態を表しています。
- ◆ 人にかかるコストのうち、人件費は 村 の職員給与、議員報酬、福利厚生などの他、臨時職員の給料や種々の講習会の講師謝礼も含んでいます。退職給与引当金繰入等は、退職金の支払が永年の通常の勤務に対する代価ですから、通常勤務のコストと考えて、毎年必要な額(発生した費用という)を引き当てます(蓄えておくと考えてください)。他方、実際の退職金の支払は、この引当金から支払われたと考えて、新しい費用は発生させません。今回の場合、この人件費の負担は住民1人当たり約55.5万円になります。
- ◆ 物にかかるコストのうち、物件費・経費は、人件費以外すべての業務費用です。「(2)減価償却費」と「(3)維持補修費」は、設備に関する費用です。減価償却費は設備が劣化してそのうち使えなくなるので、その時の更新費用を予め引き当てておこうということですが、簡単にいえば、設備の使用料と考えてください。事業用資産に関する減価償却費のみをここで計上し、インフラ資産のものは次の純資産変動計算書で直接資本減耗費用その他の減少として計上されます。「(3)維持補修費」は、設備が目的とした機能を果たしていけるように行った修繕の費用です。
- ◆ 公債費は、地方債の利子です。これは支出全体の 2.2% ですから、無視できるものではありません。今の金利の状態でもこれですから、経済状況が変われば大変なことになります。
- ◆ 移転支出的なコストとは、それで直接サービスを行う費用でなく村 を通じていろいろなところへ移転した金額です。また、(1)は単体会計内で相殺処理しております。(2)の補助金等は住民の皆様のさまざまな仕事への補助となるものです。(3)の社会保障給付は、非常に大きな負担となっております。
- ◆ すべての行政コストから、直接の受益者が負担する額、使用料、手数料等を引いたものが、純粋の行政コストです。このコストは当然税金などでカバーさせねばなりません。これが次の純資産変動計算書で表されます。

行政コスト計算書		金額(千円)
経常費用		1,054,241
1.人にかかるコスト	36.7%	386,392
(1)議員歳費・職員給与		219,104
(2)その他		167,288
2.物件費・経費	41.6%	438,795
(1)消耗品費		64,184
(2)減価償却費(事業用資産)		100,291
(3)維持補修費		90,402
(4)その他物件費		30,048
(5)委託費		116,761
(6)その他経費		37,109
3.業務関連費用	2.3%	24,623
(1)公債費(利払分)		23,325
(2)その他の業務関連費用等		1,298
4.移転支出	19.4%	204,431
(1)他会計への移転支出		83,174
(2)補助金等移転支出		79,721
(3)社会保障関連費等移転支出		41,280
(4)その他の移転支出		256
経常収益		81,070
1.業務収益		65,850
2.業務関連収益		15,220
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)		973,173

狭義の行政費用

純資産変動計算書

- ◆ 純資産変動計算書は、財政状態のフローを純資産の変動の角度から見たものです。
- ◆ 純資産を減少させるものは、まず先程計算した「純経常行政コスト」(これは、業務費用+数々の引当金繰入額からなっています)と、インフラ資産の減価償却(老朽化による価値の目減り分)を表す「直接資本減耗」です。これら全体を(A)とします。
- ◆ 純資産の増加分は、税金や国や県からの種々の補助金です。その他寄付金や他会計からの収益金もあります。これを(B)とします。
- ◆ このどちらが多いかで、次世代へ「負担額」を先送りしたのか、「余剰額」を引き継いだのかということになります。(A)が多ければ、当然「負担額」を先送りしたのであり、(B)が多ければ、「余剰額」を引き継いだことになります。実際に使った費用と設備の劣化費、必要な引当額を当世代が払うものと考えたら、最低必要な税額の見当がつきます。
- ◆ 村の平成23年度は、差引 37,293 千円の純資産の増加になっています。



純資産変動計算書		金額(千円)
期首純資産残高		8,445,652
純経常行政コスト	} (A)	-973,173
直接資本減耗(インフラ資産)		-194,875
財源調達	} (B)	1,222,572
地方税		81,295
社会保険料		0
移転収入(他会計移転収入)		43
移転収入(補助金等)		1,134,669
移転収入(その他移転収入)	6,565	
その他純資産の増減		-17,231
期末純資産残高		8,482,945

この差額 **37,293 千円**が、今期次世代へ引き継いだ余剰額です。

資金収支計算書

- ◆これは、今までに作成してきた決算書と同じ内容です。すなわち、現金(資金)の出入りがどのようになっているかです。本年度末残高は、昨年度末残高より、96,732 千円の増加となっております。
- ◆経常的収支は、資産の形成に関係がなく直接純資産の増大・減少をもたらす資金の収支を表します。費用として処理される人件費や消耗品費のような物件費・経費の支出と、村 に入ってきた資金での収入の関係です。ですから、行政コストや純資産変動計算書では支出と考えられた資産の目減り分(減価償却費や直接資本減耗)は、お金が出て行っていないので、その分少なく、大抵プラスとなります。
- ◆しかし、その残った分は資産の目減り分を補充するに等しい資産の取得に充てられています。これが公共資産整備収支(資本的収支)のマイナス分になっています。
- ◆財務的収支は、主として公債の元利償還支出と新しい公債の発行による収入の差額です。ですから、ここは大きなマイナスになった方がよいのです。

資金収支計算書

	金額(千円)
1.経常的収支	315,566
経常的支出	914,255
経常的収入	1,229,821
2.資本的収支	-84,499
資本的支出	357,288
資本的収入	272,789
基礎的財政収支	231,067
3.財務的収支	-134,335
財務的支出	210,109
財務的収入	75,774
当期収支	96,732
期首資金残高	15,090
期末資金残高	111,822

■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

①純資産比率

84.63%

純資産比率＝純資産合計／資産合計

資産のうち、どの割合が正味の資産、すなわち住民の持分であるかを示しています。逆に、その反対（逆のものは負債比率、すなわち資産のうち、どの程度が借入金に依存しているかです。民間では企業の財務能力の判断のために最も重視される比率です。利益の獲得が目的である民間企業では、借入金を将来利益での返済を予定するので、この比率は低いのですが（トヨタ自動車で32%くらい）、地公体では7割が標準です。地公体の場合は、借入金の返済原資は将来の税収であり、その税収のうち減価償却引当として内部保留される資金と、費用支出の残額しかないので借入の比率が高いと財政不安となります。

②社会資本形成の世代間負担比率

13.24%

社会資本形成の世代間負担比率＝（地方債+地方債(短期)+未払金）／（非金融資産+貸付金+有価証券+

出資金+基金・積立金+その他の投資）

上記と同様のことを総資産にかえて、有形固定資産に対する比率で検討します。比率が低ければ、過去の世代が有形固定資産の形成コストを負担していることとなります。反対に高ければ、将来世代がそのコストを負担しなければならないことを意味します。将来の世代もこの有形固定資産を利用するのであるから、負担するのは当然であるという考えもありますが、社会資本負担は常に拡大せねばならず（例：下水道）、過去の形成資本への負担は一定限度を超えてはなりません。

■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

③実質純資産比率

59.29%

(純資産合計－インフラ資産) / (資産合計－インフラ資産)

インフラ資産とは、道路・河川の様にサービスの源泉となっていますが、経済的取引にはなじまない資産です。したがって、地公体の返済能力を厳密に検討するために、その資産を除いて、負債と比べねばなりません。この比率がマイナスになると負債の担保は事実上ないということになります。財務の安全性を直接表現する指標といえるでしょう。

④人口一人あたり資産額

14,401 (千円)

総資産 / 人口

これは資産の整備度を表します。1人あたり、どれだけの資産の整備が行われているかを意味しています。その絶対額でその検討が付きませんが、その中でも、公共資産の質は充分検討しなくてはならないので、金額だけでは正確な住民への貢献度を測ることはできません。さらに注意すべきは、他方での公債残高の問題です。公債をどんどん発行して社会資本を整備しておけば、その社会資本は正の遺産ではなく負の遺産でもあります。従って、ここでこそ「貸借」を一括してみれば「貸借対照表」が重要な意味を持つのです。

■ 発生主義の観点からの自治体経営分析

⑤人口一人当たり純経常費用

1,398 (千円)

純経常コスト／人口

これら2つは行政の本当の意味での効率性を表す重要な指標です。行政内容は、企業活動など、地公体によって差異はないので、その人口あたりコストを比較することは極めて大きな意義を持ちます。そして、このコストの中には、発生主義であるから、退職給付引当金や減価償却費など目にみえないコストも算入されているので、これまでよりずっと正確なコストなのです。ただ、規模のメリットにより大地公体の方が、1人当たりのコストは小さくなることは当然（効率性が高い）なので、同規模の都市間で比較する必要があります。

⑥受益者負担率

6.25%

業務収益／経常費用

地公体の総費用のうち、サービスの受益者が直接的に負担するコストの事です。当然の事ながらそのコストの大半は税収でまかなわれますが、個別のサービスについては、受益者がどの程度負担しているかも重要です。もちろん、大学、病院、住宅等事業を手広く行っている地公体は、この数値が高くなる傾向があり、10%を超える地公体は、その原因を個別に検討する必要があります。

各種比率算定方法

純資産比率	純資産合計／資産合計
社会資本形成の世代間比率 (将来世代負担比率)	(公債+公債(短期)+未払金)／(非金融資産+貸付金+有価証券+出資金+基金・積立金+その他の投資)
実質純資産比率	(純資産合計-インフラ資産)／(資産合計-インフラ資産)
人口一人当たり資産額	資産合計／人口
人口一人当たり純行政コスト	純経常コスト／人口
人口一人当たり人件費	人にかかるコスト／人口
受益者負担比率	業務収益／経常費用
流動比率	(資金+財政調整基金+減債基金)／流動負債

ストック分析

	単体会計				普通会計		
	純資産比率	実質純資産比率	住民一人当たり		純資産比率	実質純資産比率	流動比率
			資産額(千円)	地方債(千円)			
上位	0.92	0.76	5,935	233	0.94	0.84	6.58
中位	0.76	0.27	2,739	557	0.8	0.55	1.04
下位	0.55	-0.23	1,128	1,736	0.58	0.19	0.22

A	0.92	0.61	5,806	401	0.94	0.76	3.68	20万人以上
B	0.87	0.76	2,726	233	0.9	0.84	6.58	3万人未満
C	0.87	0.61	2,687	291	0.9	0.74	1.76	3~20万人
D	0.86	0.71	2,750	312	0.88	0.76	2.4	3~20万人
E	0.86	0.57	5,056	591	0.87	0.67	3.28	3~20万人
F	0.84	0.65	2,584	373	0.89	0.77	1.95	3~20万人
G	0.84	0.45	5,025	744	0.9	0.69	3.97	3~20万人
H	0.83	0.25	3,609	468	0.86	0.51	0.22	3~20万人
I	0.83	0.26	3,412	535	0.89	0.54	0.49	3~20万人
J	0.82	0.58	3,275	504	0.88	0.74	1.73	3~20万人
K	0.8	0.35	2,739	454	0.89	0.65	1.48	20万人以上
L	0.8	0.39	4,184	728	0.83	0.53	0.77	3~20万人
M	0.8	0.05	3,578	625	0.85	0.34	0.6	20万人以上
N	0.78	0.64	3,470	627	0.8	0.67	0.85	3~20万人
O	0.77	0.27	3,696	743	0.83	0.54	0.83	20万人以上
P	0.77	0.59	2,956	557	0.8	0.67	1.04	3~20万人
Q	0.76	0.26	3,389	683	0.86	0.62	2.9	3~20万人
R	0.76	0.3	2,589	545	0.8	0.55	0.76	20万人以上
S	0.76	0.4	1,806	347	0.79	0.56	3.26	3~20万人
T	0.74	-0.03	3,287	737	0.83	0.36	0.95	20万人以上
U	0.74	0.34	2,363	497	0.81	0.77	1.04	3~20万人
V	0.72	0.1	2,469	608	0.8	0.4	1.4	20万人以上
W	0.72	0.19	1,807	428	0.78	0.45	0.38	20万人以上
X	0.72	0.25	3,855	988	0.78	0.52	1.18	3万人未満
Y	0.72	0.33	2,341	574	0.81	0.58	0.71	3~20万人
Z	0.71	0.33	2,071	461	0.72	0.39	1.26	3~20万人
AA	0.7	0.18	1,923	485	0.76	0.47	1.71	3~20万人
AB	0.69	0.19	2,577	685	0.79	0.56	0.93	3~20万人
AC	0.69	0.07	4,010	1,142	0.73	0.33	1.36	3~20万人
AD	0.68	-0.08	5,935	1,736	0.73	0.2	0.49	3万人未満
AE	0.67	0.32	2,060	653	0.76	0.6	0.64	3~20万人
AF	0.65	0.12	1,579	460	0.71	0.4	0.68	3~20万人
AG	0.64	0.15	1,508	441	0.64	0.19	1.02	3~20万人
AH	0.61	-0.02	2,353	705	0.77	0.46	0.6	3~20万人
AI	0.61	0.01	1,840	638	0.68	0.35	0.73	3~20万人
AJ	0.58	-0.23	2,439	935	0.69	0.29	0.62	3~20万人
AK	0.58	0.04	1,128	401	0.58	0.55	1.23	3~20万人
AL	0.55	-0.05	3,195	1,312	0.67	0.46	1.39	3~20万人
(AM)	0.77	0.48	9,471	1,749	0.78	0.6	2.41	3万人未満

浜嘉敷村	0.82	0.47	16,635	2,655	0.85	0.59	3.20	696人
------	------	------	--------	-------	------	------	------	------

フロー分析

	普通会計	
	住民一人当たり	
	人件費(千円)	純行政コスト(千円)
上位	48	88
中位	70	129
下位	151	304

A	67	156	20万人以上
B	124	231	3万人未満
C	61	126	3~20万人
D	71	129	3~20万人
E	95	216	3~20万人
F	64	115	3~20万人
G	85	185	3~20万人
H	85	129	3~20万人
I	64	109	3~20万人
J	52	123	3~20万人
K	66	117	20万人以上
L	73	152	3~20万人
M	72	136	20万人以上
N	69	129	3~20万人
O	71	131	20万人以上
P	87	171	3~20万人
Q	60	136	3~20万人
R	67	120	20万人以上
S	70	165	3~20万人
T	89	157	20万人以上
U	81	153	3~20万人
V	71	124	20万人以上
W	49	88	20万人以上
X	93	109	3万人未満
Y	53	113	3~20万人
Z	64	124	3~20万人
AA	69	124	3~20万人
AB	67	123	3~20万人
AC	104	197	3~20万人
AD	151	304	3万人未満
AE	48	107	3~20万人
AF	67	118	3~20万人
AG	79	133	3~20万人
AH	89	160	3~20万人
AI	70	130	3~20万人
AJ	74	126	3~20万人
AK	52	108	3~20万人
AL	87	161	3~20万人
(AM)	321	596	3万人未満

渡嘉敷村	555	1,398	696人
------	-----	-------	------

住民等のニーズを踏まえた分析

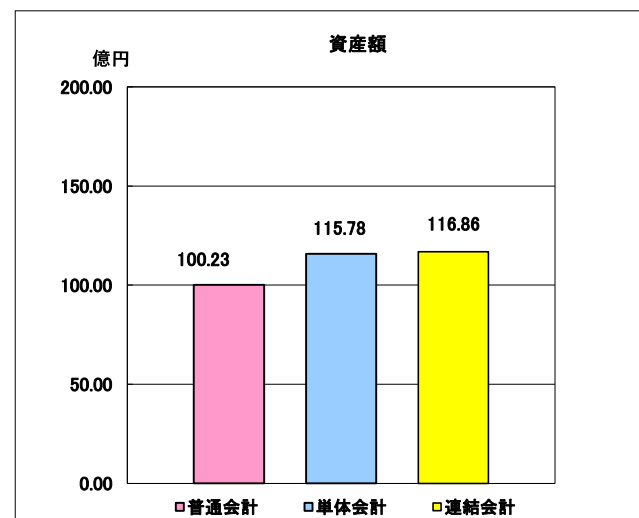
(1) 資産形成度

ニーズ1：将来世代に残る資産はどれくらいあるのか

①『資産額』（B/S）

(単位: 億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
金融資産	9.87	9.84%	11.65	10.06%	12.70	10.87%
資金	1.12	1.12%	1.29	1.12%	1.35	1.15%
未収金	0.76	0.76%	0.78	0.67%	0.80	0.69%
貸付金	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
その他の債権	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
貸倒引当金	▲ 0.00	0.00%	▲ 0.00	0.00%	▲ 0.01	-0.01%
有価証券	0.08	0.08%	0.10	0.08%	0.10	0.08%
出資金	0.23	0.23%	0.23	0.20%	0.23	0.19%
基金・積立金	7.61	7.60%	9.18	7.93%	10.16	8.70%
その他の投資	0.07	0.07%	0.07	0.06%	0.07	0.06%
非金融資産	90.36	90.16%	104.13	89.94%	104.16	89.13%
事業用資産	27.97	27.91%	27.97	24.16%	27.99	23.95%
インフラ資産	62.39	62.25%	76.16	65.78%	76.16	65.18%
資産合計	100.23	100.00%	115.78	100.00%	116.86	100.00%



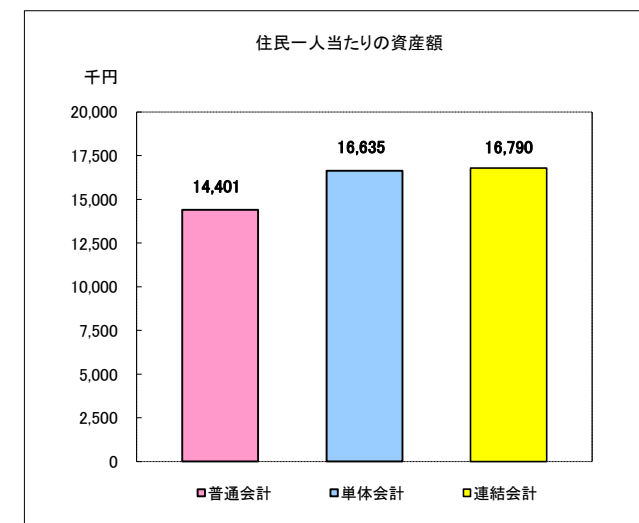
②『住民一人当たり資産額』（B/S）

住民一人当たり資産額 = 資産合計 / 住民基本台帳人口

普通会計	=	10,023,125 千円	／	696 人	=	14,401 千円
単体会計	=	11,578,193 千円	／	696 人	=	16,635 千円
連結会計	=	11,685,640 千円	／	696 人	=	16,790 千円

(単位: 千円)

	普通会計	単体会計	連結会計
住民一人当たりの資産額	14,401	16,635	16,790



(2) 世代間公平性

ニーズ2：将来世代と現世代との負担の分担は適切か

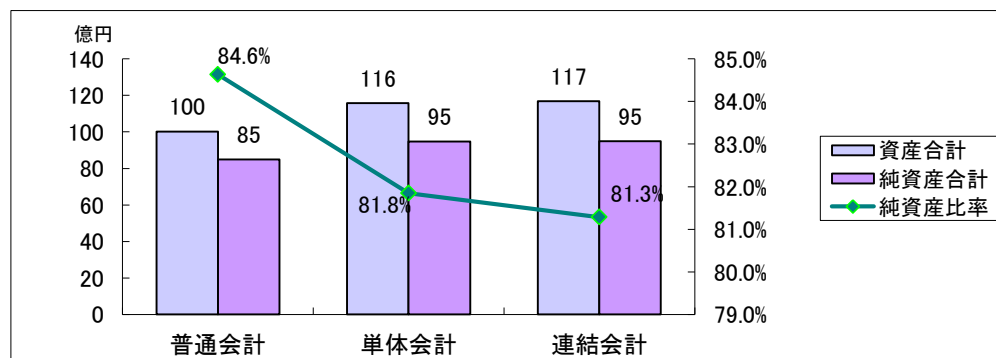
① 『純資産比率』 (B/S、NWM)

$$\text{純資産比率} = \text{純資産合計} / \text{資産合計}$$

普通会計	=	85 億円	／	100 億円	=	84.6%
単体会計	=	95 億円	／	116 億円	=	81.8%
連結会計	=	95 億円	／	117 億円	=	81.3%

(単位:億円、%)

	普通会計	単体会計	連結会計
純資産比率	84.6%	81.8%	81.3%
資産合計	100	116	117
純資産合計	85	95	95

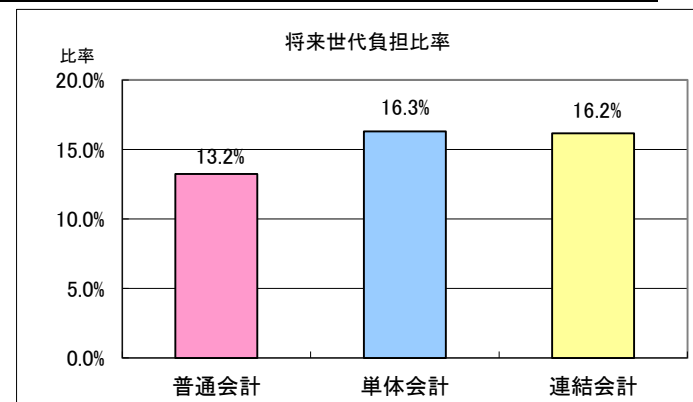


② 『社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率)』 (B/S)

$$\text{社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率)} = \frac{\text{地方債} + \text{地方債(短期)} + \text{未払金}}{\text{非金融資産} + \text{貸付金} + \text{有価証券} + \text{出資金} + \text{基金} + \text{積立金} + \text{その他の投資}}$$

(単位:億円、%)

	普通会計	単体会計	連結会計
将来世代負担比率	13.2%	16.3%	16.2%
(地方債+地方債(短期)+未払金)	13	19	19
(非金融資産+貸付金+有価証券+出資金+基金+積立金+その他の投資)	98	114	115



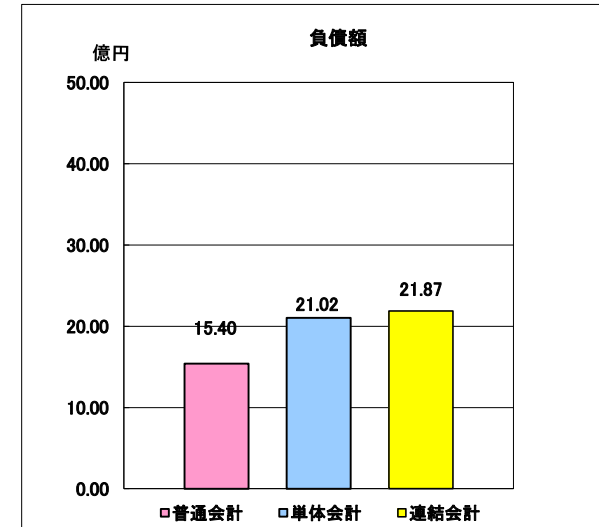
(3) 持続可能性（健全性）

ニーズ3：財政に持続可能性があるか（どれくらい借金があるのか）

①『負債額』（B/S）

(単位:億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
流動負債	2.09	13.57%	2.70	12.82%	2.70	12.34%
地方債(短期)	1.90	12.33%	2.40	11.42%	2.40	10.97%
賞与引当金	0.14	0.93%	0.25	1.18%	0.25	1.14%
その他	0.05	0.31%	0.05	0.23%	0.05	0.23%
非流動負債	13.31	86.43%	18.32	87.18%	19.17	87.66%
地方債	11.07	71.87%	16.08	76.51%	16.08	73.53%
退職給付引当金	2.24	14.56%	2.24	10.67%	3.09	14.11%
その他	0.00	0.00%	0.00	0.00%	0.01	0.02%
負債合計	15.40	100.00%	21.02	100.00%	21.87	100.00%

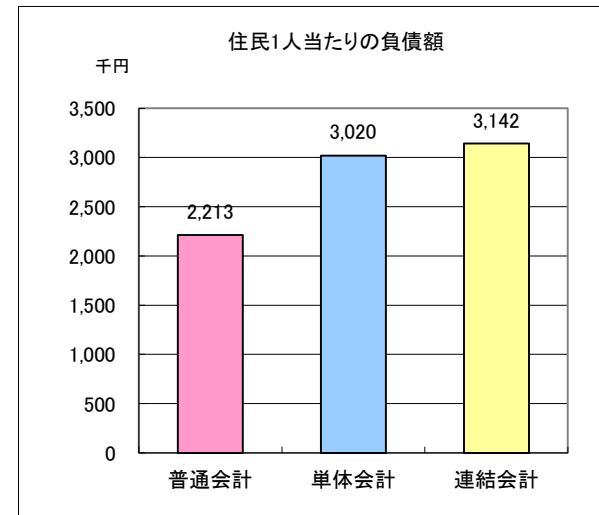


②『住民一人当たり負債額』（B/S）

住民一人当たり負債額 = 負債合計 / 住民基本台帳人口

普通会計	=	1,540,181 千円	／	696 人	=	2,213 千円
単体会計	=	2,101,760 千円	／	696 人	=	3,020 千円
連結会計	=	2,186,905 千円	／	696 人	=	3,142 千円

	普通会計	単体会計	連結会計	(単位:千円)
住民1人当たりの負債額	2,213	3,020	3,142	(単位:千円)
負債合計	1,540,181	2,101,760	2,186,905	(単位:千円)
人口	696	696	696	(単位:人)



(4) 効率性

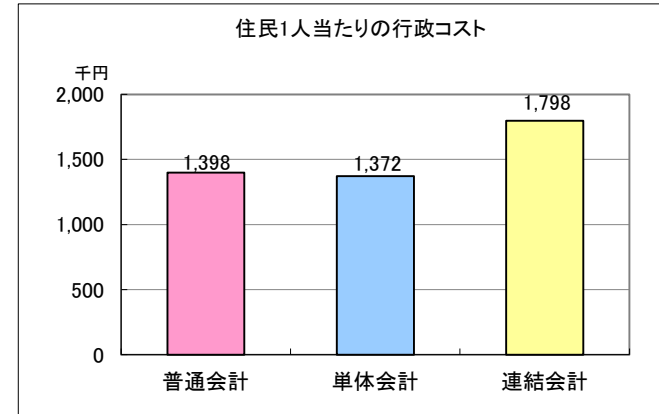
ニーズ4：行政サービスは効率的に提供されているか

① 『住民一人当たり行政コスト』 (P/L)

住民一人当たり行政コスト = 純経常行政コスト / 住民基本台帳人

普通会計	=	973,173	千円	/	696	人	=	1,398	千円
単体会計	=	955,101	千円	/	696	人	=	1,372	千円
連結会計	=	1,251,196	千円	/	696	人	=	1,798	千円

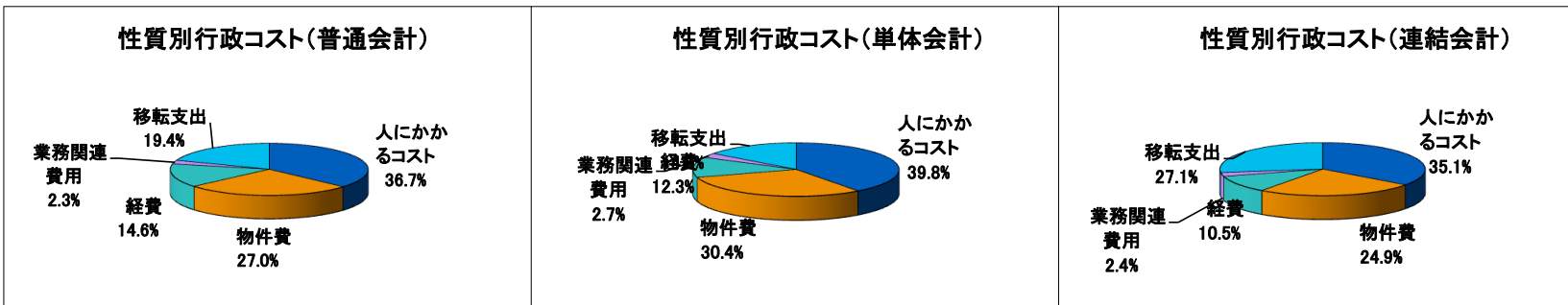
	普通会計	単体会計	連結会計	
住民1人当たりの行政コスト	1,398	1,372	1,798	(単位:千円)
純経常コスト	973,173	955,101	1,251,196	(単位:千円)
人口	696	696	696	(単位:人)



② 『性質別行政コスト』 (P/L)

(単位:億円、%)

	普通会計		単体会計		連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
人にかかるコスト	4	36.65%	6	39.79%	7	35.15%
物件費	3	27.02%	5	30.41%	5	24.90%
経費	2	14.60%	2	12.28%	2	10.46%
業務関連費用	0	2.34%	0	2.72%	0	2.37%
移転支出	2	19.39%	2	14.81%	5	27.12%
合計	11	100%	15	100%	19	100%



新公会計財務諸表のご説明

単体会計 平成23年度

単位(千円)

貸借対照表					
資産の部		負債の部			
	金額		金額		
1.金融資産	10.1%	1,164,752	1.流動負債	12.8%	269,503
(1)資金		129,485	(1)地方債(短期)		239,929
(2)未収金		78,021	(2)賞与引当金		24,763
(3)貸付金		0	(3)その他		4,811
(4)その他債権		0	2.非流動負債	87.2%	1,832,257
(5)貸倒引当金		-238	(1)地方債		1,607,965
(6)有価証券		9,668	(2)退職給付引当金		224,292
(7)出資金		22,698	(3)その他		0
(8)基金・積立金		917,729			
(9)その他の投資		7,389			
2.非金融資産	89.9%	10,413,441	負債合計	18.2%	2,101,760
(1)事業用資産		2,797,050	純資産の部		
(2)インフラ資産		7,616,391	純資産合計	81.8%	9,476,432
資産合計	100.0%	11,578,193	負債及び純資産合計	100.0%	11,578,193

純資産変動計算書	
	金額
期首純資産残高	9,430,390
純経常行政費用	-955,101
直接資本減耗(インフラ資産)	-288,450
財源調達	1,306,825
税金	81,295
社会保険料	17,375
移転収入(他会計移転収入)	0
移転収入(補助金等)	1,181,288
移転収入(その他移転収入)	26,867
その他純資産の増減	-17,232
期末純資産残高	9,476,432
	46,042

行政コスト計算書		
	金額	
経常費用	1,526,295	
1.人にかかるコスト	39.8%	607,267
(1)議員歳費・職員給与		347,336
(2)その他		259,931
2.物件費・経費	42.7%	651,575
(1)消耗品費		165,447
(2)減価償却費(事業用資産)		127,017
(3)維持補修費		130,751
(4)その他物件費		40,932
(5)委託費		126,201
(6)その他経費		61,227
3.業務関連費用	2.7%	41,473
(1)公債費(利払分)		34,712
(2)その他の業務関連費用等		6,761
4.移転支出	14.8%	225,981
(1)他会計への移転支出		0
(2)補助金等移転支出		176,210
(3)社会保障関連費等移転支出		41,280
(4)その他の移転支出		8,491
経常収益		571,194
1.業務収益		459,066
2.業務関連収益		112,128
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		955,101

(1)赤線
純資産の増減を表します。
・緑線は減った純資産
・財源調達は入った純資産
・その他は資産の目減り分

(2)青線
資金の増減を表します。
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書	
	金額
1.経常的収支	456,114
経常的支出	1,347,764
経常的収入	1,803,878
2.資本的収支	-150,110
資本的支出	422,899
資本的収入	272,789
基礎的財政収支	306,004
3.財務的収支	-216,688
財務的支出	292,462
財務的収入	75,775
当期収支	89,316
期首資金残高	40,169
期末資金残高	129,485

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

新公会計財務諸表のご説明

連結会計 平成23年度

単位(千円)

貸借対照表					
資産の部		負債の部			
	金額		金額		
1.金融資産	10.9%	1,269,966	1.流動負債	12.3%	269,825
(1)資金	134,534	(1)地方債(短期)	239,986		
(2)未収金	80,338	(2)賞与引当金	24,846		
(3)貸付金	321	(3)その他	4,993		
(4)その他債権	0	2.非流動負債	87.7%	1,917,081	
(5)貸倒引当金	-1,404	(1)地方債	1,607,965		
(6)有価証券	9,668	(2)退職給付引当金	308,604		
(7)出資金	22,698	(3)その他	512		
(8)基金・積立金	1,016,422	負債合計	18.7%	2,186,905	
(9)その他の投資	7,389	純資産の部			
2.非金融資産	89.1%	10,415,675	純資産合計	81.3%	9,498,735
(1)事業用資産	2,799,284	負債及び純資産合計	100.0%	11,685,640	
(2)インフラ資産	7,616,391				
資産合計	100.0%	11,685,640			

純資産変動計算書	
	金額
期首純資産残高	9,457,203
純経常行政費用	-1,251,196
直接資本減耗(インフラ資産)	-288,450
財源調達	1,599,177
税金	81,295
社会保険料	25,490
移転収入(他会計移転収入)	21
移転収入(補助金等)	1,314,980
移転収入(その他移転収入)	177,391
その他純資産の増減	-17,999
期末純資産残高	9,498,735
	41,532

行政コスト計算書		
経常費用	金額	
1.人にかかるコスト	35.1%	655,737
(1)議員歳費・職員給与	348,142	
(2)その他	307,595	
2.物件費・経費	35.4%	659,671
(1)消耗品費	165,523	
(2)減価償却費(事業用資産)	127,146	
(3)維持補修費	130,754	
(4)その他物件費	41,141	
(5)委託費	132,387	
(6)その他経費	62,720	
3.業務関連費用	2.4%	44,251
(1)公債費(利払分)	34,713	
(2)その他の業務関連費用等	9,538	
4.移転支出	27.1%	506,035
(1)他会計への移転支出	46	
(2)補助金等移転支出	455,008	
(3)社会保障関連費等移転支出	41,280	
(4)その他の移転支出	9,701	
経常収益	614,499	
1.業務収益	501,632	
2.業務関連収益	112,867	
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)	1,251,196	

(1)赤線
純資産の増減を表します。
・緑線は減った純資産
・財源調達は入った純資産
・その他は資産の目減り分

(2)青線
資金の増減を表します。
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書	
	金額
1.経常的収支	437,081
経常的支出	1,701,905
経常的収入	2,138,986
2.資本的収支	-133,188
資本的支出	430,456
資本的収入	297,268
基礎的財政収支	303,893
3.財務的収支	-215,660
財務的支出	292,519
財務的収入	76,859
当期収支	88,233
期首資金残高	46,301
期末資金残高	134,534

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。